

# 舟山

発行者  
幸田町立南部中学校  
鈴木 一也  
第128号

## 充実した二学期

早いもので、二学期も半ばを過ぎました。生徒たちは、授業や行事等を通して、着実に成長を遂げています。特に、全校生徒による「南中ソーラン」などでは、多くの生徒が自分の力を発揮したところを、保護者の皆様に披露することができました。また、十一月十一日・十三日に行われた防犯ボランティアパトロールでは、地域の皆様がたにご協力いただきました。

このように、保護者や地域の皆様の温かいご支援があつてこそ、子どもたちは安心して学校生活を送ることができています。お子様たちが元気に学校に通えるよう、今後も共に見守っていきましょう。よろしくお願ひ致します。



防犯パトロール

## よい姿勢をひけぬため

三年 松本 空知

今までの自分は、よい姿勢をつくることができればそれでよい、と思つていました。それで立つときや座るときに、腰の筋肉を意識していました。そのため、腰に負担がかかり、痛くなることがありました。

今回、講師の先生がたに教えていただいた魔法のストレッチをやつてみて、かなり楽に、よい姿勢で座れることが実感できました。また、無理やりよい姿勢をつくるのではなく、無意識でもよい姿勢でいられるようにすることが大切だと学びました。

これからの生活の中で、常によい姿勢がとれるように、今回教えていただいたストレッチを継続していこうと思ひました。受験勉強の合間の気分転換としても実践していきます。



学校保健委員会での様子

## 伝統を受け継ぐ

二年 西村優来里

先日の授業参観で南中ソーランの発表がありました。今年度、最初で最後の全校で踊るソーランでした。

練習は、約一か月前から始まり、朝と昼の時間を使って取り組みました。三年生が真剣に声を出し、全力で必死に踊る先輩たちの思いが伝わってきました。私たちも三年生の足を引つ張らないようにと全力で声を出し、みんなの気もちをそらえて練習しました。

本番では、たくさんさんの保護者のかたがいて、緊張しました。今まで教えてもらったことを全部出し、踊り切ることができました。

私たちは三年生から南中の伝統の一つである南中ソーランを引き継ごうとしています。そして、私はソーランリーダーをめざしています。南中ソーランをこれからは私たちが受け継いでいけるように、これからもみんなで精進していきます。



踊り切った南中ソーラン

## 授業参観

一年 山下 和仁

久しぶりの授業参観でしたが、あまり緊張せず、授業を受けられました。私たちのクラスは、理科で「凸レンズを通る光はどのように進むのか」ということを勉強しました。光軸に平行な光はレンズを通つたとき、三か所とも焦点に行くけど、凸レンズの中心を通るときは、向きを変えずにそのまま直進するということとがわかりました。まだわからないこともあるので、これからの学習で理解できるようにしていきたいです。

授業のあとは、「南中ソーラン」を披露しました。一、三年生の先輩は、自分たちより一つ一つの動きが速くて、とてもかっこよかったです。私たち二年生も、練習で言われたことを意識しながら、必死に踊ることができました。必死さの中にも、楽しさを感じながら披露できてよかったです。



授業参観での様子

生き方講演会

一年 鈴木 惺也

今回の生き方講演会の講師は合唱コンクールの審査員もしていただいたソリストの大久保亮先生でした。特に印象に残ったのは、中学生の時点で自分が音楽の道に進もうと決めたことです。そして実際にその夢を叶えていてすごいと思いました。

また、有名なかたにも自分から進んでアドバイスを求めたり、質問をしたりするのがすばらしいと感じました。私はなかなか行動にできないときがあるのですが、自分のためにも勇気を出して行動することが大切だと気づきました。中学生の時期はどんなことでも挑戦することができて未来への可能性はたくさんあるから自分の苦手なことから逃げずにたくさん物事にチャレンジしたいと思いました。経験をたくさん積むことで役に立つことが多いと大久保先生がおっしゃっていたので、自分も信じてやってみようと思います。



講師のかたに質問する生徒

自分の身を守るために

一年 神取 那奈

不審者対応避難訓練を通して、さまざまなことを知ることができました。不審者が突然教室に入ってきたとき、訓練というのを知っていたにも関わらず、とても怖かったです。焦ってすぐに逃げようとしたのですが、みんなも焦っていて、階段や廊下がぎゅうぎゅうになり、スムーズに進めなくて、さらに焦りました。今後は、落ち着いて、でも急いで、押し合いにならないように逃げようと思いました。

講話では、警察のかたが、「学校なら先生たちや親が守ってくれる。けど、いつもそうとは限らない。自分の身は自分で守らなくてはいけない。」とおっしゃっていました。私たちは、常に大人と一緒にいるわけではありません。毎日の登下校は子どもたちだけです。そういった時にすぐに異変に気づけるようにしたいです。



警察官の話聞く生徒たち

志望校合格に向けて

三年 伊東 幸祐

小中学校とは違い、高校へ進学するには受験があり、自分の力が問われます。皆それぞれめざしている高校があり、将来に向けて進んでいくと思います。そのためにも私は、二学期の期末テストが受験の可否の鍵になるため、いつもより早めにテスト勉強の計画を立て、勉強の質を高めてきました。

テストまで残り一週間を切った今、テスト当日で絶対後悔しないようにするため、一分一秒の時間も無駄にしないよう、最後まで集中し、全力で取り組んでいきます。

また、期末テストが終わっても、受験はこれからなので、気を緩めることなく、三年生全員で受験に向けての雰囲気づくりをし、一緒にがんばっていききたいと思います。



問題に集中して取り組む3年生

ダンスの授業参観

二年 古田 紗織

今年度三回目の授業参観でした。内容は、体育の創作ダンスでした。織田先生からは、今日のテーマが発表されて、「前回の行動の真似をして動きを足していく。」と言われました。正直、中学生にとって親の前でダンスするのはなかなかハードルが高いと思っていましたが、一組の子はみんな全力でやっていて私も負けていけないと思い、全力でやりました。みんなでやってみるととても楽しいと感じました。

授業参観を通して、普段の授業を全力でやるってことはとても大切だと思いました。これから二年生が学校の中心として、部活動や行事などに関わっていくことが増えてきます。ただ、行事の時だけ全力でやっても成功はしません。二年生みんなで日々の生活から全力でやることに挑戦していく雰囲気をつくり、生活していきます。



ダンスの練習をする生徒